

鳥形山の「残像と実像」

（谷脇常智著「鳥形山残像」、1991・9）に寄せて

宮川敏彦 1991・11

「鳥形山の名前は、高知の
人が付けたが、谷脇常智
さんは父がこういって書
いています（鳥形山残像）
に入隊中に望郷の念を慰めて
を見ては望郷の念を慰めて
いたという。私が青年師範学
校で午前中は朝日をあびて
午後になる。鳥形山を告げて
シヤモのシルエツトに見え
た。私の鳥形山に向かっていると
の思いに我が思いを重ねたこ
とであった。」
鳥形山残像は、著者が
生まれ育った仁淀川のくらし
や思い出、自然を中心に綴っ
たもので、情感あふれる山村
の生活史、民俗誌ともなっ
ています。
さて、私はいま、こうして
歴史と産業のくらしをテーマ
に仁淀川をくらしをたどる
ことになりましたが、仁淀
町川で吾北、吾川などの流域
をめぐって、60年代高度経済
長期をへて、地域が大きく変

わり、若年層を中心とした人
口減少と深刻な過疎化を引
起こしました。コウゾミツ
マタ、薪炭が支えた1950年代
での伝統的な生活様式の時代
は終焉しました。その後の大
造林政策と木材生産の拡大
の好況を山産材の輸出入によ
るのよって、地域は今日見
る限りのありさまでした。
山形山をめぐって、商品経
済を進めた高度経済成長は、
古い時代の生産人間関係の
残りかすを掃く一方、睡眠
「敵」の自然の中にも、睡
富を生み、和が文化を支え
合ってきた山懐の温もり（谷
脇）
は、仁淀川上の中流
域における産業とくらしの変
貌は、ずいぶん早くから始ま
ていました。仁淀川上流の移
民・パラグアイへ、3月末に
10家族「村の二大産業とい
われる製紙原料、木炭が不況
の折から：。1958年1月26
日の高知新聞です。ついでに
紹介されたこのころの仁淀
村別校中学校卒業生36人の
跡を追ったものに、高知新聞
「平和のあとさき」高知の戦
後・半世紀（1995・3より連
載）があります。
昭和34（1959）年はまさに
転機のさななだった。ミツマ

々は外に目を向けた。必然的に代
わった卒業生たちもやがて全
だっが村外に出た。多かっ
進学者は大阪への集団就職で
たか東京や高知市にもいわ
ぼか安価で良質な労働力とし
て都市に吸収されたのである。
高度成長を担ったのは、彼ら
のような寒村の出身者だった。
（連載第一回）
1971・88年の巨大な大渡ダム
建設は、ダム本体や関連事業
によって、土木建設業など活
況を呈する一方、共同体とし
ての地域の崩壊を加速させま
した。
1980・90年の間、村の人
口は半減し、3000人余を救え
る傾向が顕著になりました。減
少の年代が顕著になる60年代か
少の振興と山村における農林
業の新しい地場産業の開発が宿
望・悲願でした。
近年の研究に、「国際化一
時代の山村・農林業問題」再
建への模索、高知からの報告
「高知県緑の環境会議山
村研究会、1993・3」がありま
す。
この本の中で、「川田勲さん
（高知大学）が、仁淀川の
産業構造」鳥形山の石炭開採
と地域経済」谷脇さんの「鳥
山残像」に、現代像を重ねな

から、新たな興味をひかれま
した。理重量15億トン、日本でこ
いれに匹敵する石灰石はないと
県や村の積極的な開発誘致努
力の結果、196年度から工事が
本格化となり、71年から日鉄
鉱業株式会社（日鉄）により
操業されています。
私は20年間、たびたび探掘
現場を見学する機会がありま
した。昔の鳥の勇姿はありま
せした山頂部。ベンチカット取
れた山頂部の採掘法。わが国
式とよばれる採掘法。わが国
鉱山最大クラスの重機。120ト
ンダンプロトラックや世界初
146トン無人ダンプロトラック
などが活躍しています。確かに、
「鳥形山は鳥形山（やま）
となり、限りなく消滅しつつ
ある」（谷脇さん）といえる
でしょう。
川田さんは、変貌していく
村の産業史をたどりながら、
「世帯主の鉱業への就労は、
出家離村を余儀なくされた高
知県の僻地山村のなかで、過
疎化の歯止め効果も果たして
きた」といえる。果たして
は鳥形山鉱業所の従業員及び
家族は下請け関連会社を含め
80人を救え、村人口の実に25
パーセントに当たります。鳥山
鉱業所の展開は典型的な僻山
第二産業としての地域産業
の発展と村財政への貢献さ

いの風にくかれて⑨

議員、やってみん？

山崎 きよ

皆さん、議員になってみた
いですか？議員という職業は
魅力的に見えますか？今、地
方の自治体で議員のなり手が
いない、という悩みがありが
す。ちよつとでも「やりたい」
と思う人が、もっと気軽に立
候補できるようになればと私
は思っています。
大川村では議員のなり手が
少なくなり、一時は全村民が
参加する「町村総会」まで検
討されました。そして現在、
「兼業禁止規定」の見直しを
している。今は地方自治法で、
議員は自治体と関係が深い企
業、団体の役員などとの兼業
が禁じられています。その規
定を緩和して、なり手を増や
そうという事です。
しかし、一方で議員に対し
て、厳しい声もあります。私
が地域をまわると「議員定数
を減らせ」「報酬を減らせ」
と言われています。私は逆に定
数を増やして、報酬を上げるこ
とが必要だと思えます。そ
うでないと思ふ手はないな
ります。
私が議員になったのは、先

「第24回国フロッ ク交流集会在香川」 に行ってきました

倉橋 楠雄
11月7日朝、高知インター
手前のコンビニで県退教高知
市の3人と小松事務局長と待
ち合わせし、坂出市に向かい

ました。
「昼前に会場のホテルに到着
し、早速近場のうどん店で
「ちゆるちゆる」昼食を摂り、
集会の受付を済ませ、我々二
人は第3分科会「観よう」に
参加しました。
早速、マイクを渡して「沙
弥島」へ。島といっても埋め
瀬戸自動車道が目の前に大き
く見えるところ。一「万葉
の遺跡」や「古代の塩作り」
などを地元の学芸員さんから
説明を受けました。最後
は駐車場そばの「せとうち美
術館」で、東山魁夷の作品を鑑
賞して会場のホテルへ。温泉
で休憩後、交流懇親会は各県
高退教の出し物などで盛り上
がりました。
二日目は全体会、約80名の
参加でした。各退教の報告
（高退協は小松事務局長）と
3分科会の感想発表があり、
引き続き現職の杉村智子先生
が「高松空襲の絵本・DVDのイ
ラストを担当して」を講演し
終了しました。次回は徳島開
催となっています。



倉橋 楠雄